

情報活用単元デザインシート（今里小学校）

学年・教科	3 年 社会科・総合的な学習	単元（教材）名	店ではたらく人びとの仕事を調べて伝え合おう
時数	18 時間（本時：5 時）	日時	令和 2 年 10 月 14 日（水） 第 5 時限（14:00－14:45）
場所・教室	3 年 1 組 教室	授業者	金 玲 佳（今里小） 藤田 徹也（南港桜小）
単元のねらい（目標） ○日常生活での買い物経験から、地域には様々な店があることに気づき、それぞれの店のよさや、特色について理解することができる。 ○調べたことをわかりやすくプレゼンテーションにまとめ、他校の相手と伝え合うことができる。			

単元の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 家の人の買い物の仕方を地図やグラフにまとめ、その結果を読み取っている。 店が集客のため、価格、安全・安心、品質、利便性に関する取り組みや工夫をしていることを理解している。 野菜や果物などの産地を地図にまとめることから、店が他地域や外国とも結びついていることを理解している。 商店街を見学して、店の様子や聞き取ったことをメモしている。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケット（以下スーパー）と比べ、コンビニエンスストア（以下コンビニ）の工夫を考えている。 スーパー、コンビニと比べ、商店街の工夫を考えている。 買い物客を集める店の工夫について、販売店側の工夫と消費者側の工夫について関連づけて考えている。 今まで学習してきたことをもとに、消費者のわたしたちの願いや都道府県や外国とのつながりを大切にするためのスーパーの工夫について考え表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域には様々な店があることに気づき、買い物調べについて意欲的に取り組もうとしている。 店の見学について、調べる対象や方法を明確にし、見学の計画を立てている。 これまでの学習を振り返り、買い物をするときに、自分が気をつけることを考えようとしている。 他校の相手に伝わりやすい発表を意識して取り組んでいる。

指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、5 月の分散登校時から様々な教科で ICT を活用した授業に取り組んでいる。まずタブレット端末で文字を入力できるようにするために、5 月の分散登校時からローマ字学習を行った。そして、6 月以降には、総合の時間や短時間学習時に、「キーボー島アドベンチャー」を使ってローマ字入力を何度も練習した。その結果、現在はほとんどの児童がキーボードを使って文字入力ができるようになってきた。また、7 月以降は、「発表ノート」や協働学習アプリ「コラボノート」を使い、児童が自ら撮影した写真や、インターネットで調べた画像をスライドに貼り付けたりする活動を行った。例えば、図画工作科の「かげ絵を作ろう」では、グループに一台タブレット

端末を用意し、撮影する人、作品を作る人、写真をトリミングする人と役割分担をして行った。作品を撮影し残すことで、後日児童の考えたかげ絵を学級で鑑賞することができた。また、活動にあたっては、NHK for School の「しまった」を視聴し、撮影時には許可をもらうことや、周囲への配慮が必要などの情報モラルを理解した上で行った。このような学習を通して、今では児童が自分の意見をスライドにまとめ、グループ内でそれをもとに話し合うことができるようになってきた。しかし、児童の作成したスライドは、文字が小さかったり、黄色や黄緑色を文字色で使い見えにくかったり、不必要な文が多かったりなど、聞き手を意識して作成するという点において課題が残っている。

文部科学省が「GIGAスクール構想」を掲げ、2023年度を繰り上げ今年度中には児童一人一台にパソコンなどの端末が整備される予定となった。そこで、「協働学習」におけるICT機器の効果的な活用方法に着目し遠隔での授業や交流を行うことにした。また、新型コロナウイルスの影響で社会見学や遠足など校外での学習活動ができない状況でもある。その為、少しでも他地域との違いや共通点を知るために、大阪市立南港桜小学校3年生とオンライン会議アプリを使って遠隔交流を行うこととした。

遠隔交流を始めるにあたって、最初にそれぞれの教室から簡単な自己紹介をした。授業後の児童の感想は、「クラスの人数が多くてびっくりした。」や「制服じゃなくて、私服だった。」など普段当たり前だと思っていたことも地域や場所によって違うことに気づくことができた。また、給食の様子を交流したり、昼休みの様子について話し合ったりなど、児童が遠隔交流に少しずつ慣れてきたように感じる。

本単元の1回目の遠隔交流では、買い物調べをもとに発表ノートを作成し、画面共有をしながら発表を行った。商店街やさまざまなお店が近隣にある今里では、自転車で買い物に行く家庭が多かった結果に対し、大型スーパーが近隣にある南港桜では、歩いて買い物をする家庭が多かった。この結果を児童が発表し合うことで、地域によって買い物の仕方が違うことに気づくことができた。しかし、結果の相違点を学級で考える時間に、結果の中身ではなく、文字の大きさや技法の違いを気にしてしまい、深い学びにつなげるという点では課題が残った。

(2) 教材観

児童観で述べた、スライド作成や、遠隔交流の発表での課題から、本学級の児童に「聞き手に伝わりやすい発表づくり」を意識付けたい。その為に、社会科「店ではたらく人びとの仕事」を教材にするのが有効だと考えた。理由は、本単元の目標から聞き手を意識した発表作りが行いやすいということである。1回目の遠隔交流では、各家庭で買い物調べを行った結果の交流とした。普段どのような店で買い物をしているのか、なぜその店なのかを調べ、その結果をグループ毎に分かれて発表ノートにまとめていった。調べた結果から、買い物に行く店の種類や交通手段をばうグラフにまとめたり、店を選ぶ上でのポイントを箇条書きにまとめたりしていく中で、文字の大きさや強調したいことなど児童同士で話し合いながら進めていくことができた。

2回目は、お店の特徴を他地域と比較するために遠隔交流を行う。今里小学校近辺は商店街があり、さまざまな種類のお店が並んでおり、買う品物によって店を選ぶことができる。それに対し、南港桜小学校は、大型スーパーマーケットでの買い物が中心となっている。したがって、両校が発表し交流しあうことで、他地域での買い物の特徴や違いを知り、地域には様々な店があることをより深く理解することができると考える。

(3) 指導観

聞き手に伝わりやすい発表を意識させるために、2つの点について取り組む。

1つ目は、スライド作成にあたっての留意点を知る活動である。NHK for School「しまった～プレゼンテーションを作る～」を視聴し、文字を大きくする必要性や、色使い、また、グラフや表にまとめたり、最適な写真を貼り付けたりすることを理解させていく。そして、発表の際にも「しまった～話す力を高める～」を視聴し、声の大きさや、速さなど、普段の発表よりも気を付けないといけないことを知り、意識付けていく。

2つ目は、本単元で遠隔交流を2回行うことである。1回目は買い物調べから、どのような結果なのかを両校がそれぞれ発表ノートにまとめて発表し、その発表から気付いたことを「コラボノート」に入力し意見交流する活動である。1回目の授業後、児童からやってみての反省やよかった点を聞き取り、次回への課題を話合わせる。そうすることで、2回目の発表、意見交流がより円滑に行われることが期待できる。事前に発表交流する際のポイントや注意事項を学び、2度の実践を行うことで児童が聞き手を意識した発表ができると考える。

指導の流れ（社会科13時間、総合的な学習5時間）

時	学習活動	ICT活用のポイント	指導上の留意点
1	<p>○日常生活での買い物の経験を話し合い、地域には様々な店があることに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段買い物しているところを知る。 ・買い物する店を考える。（スーパー、商店街、インターネットなど） ・買い物調べの計画を立てる。 <p>（8月29日～9月4日）</p>	<p>○デジタル教科書や、資料を大型モニターに提示することで、課題を共有して話し合いを進めることができる。</p>	<p>○お店の写真を掲示し、さまざまな場所で買い物をしていることに気付かせる。</p> <p>○各家庭で買い物調べを行うことにより、店と生活との関わりに気付かせる。（※資料①参照）</p>
2 ～ 4	<p>○買い物の仕方について調べたことを、地図やグラフにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しまった～プレゼンテーションを作る～」を視聴し、聞き手がわかりやすいまとめ方を知る。 ・買い物調べの結果をまとめる。 ・グラフや地図、写真などを使ってまとめる。 ・遠隔授業に向けての発表の練習をする。 	<p>○「しまった～プレゼンテーションを作る～」を視聴することで、聞き手を意識したスライド作りをすることができる。</p> <p>○「発表ノート」を使うことでふせんに書いた自分の意見を並べなおしたり、書き直したりすることで、意見を見直し、比較等が容易にできる。</p>	<p>○店の種類ごとの買い物回数（日数）を棒グラフに表すことで、どの種類の店で買い物の回数が多いか実感させる。</p> <p>○校区内にはどのような種類の店が多いか、どのような場所に店が多く集まっているかという特色をとらえさせる。</p>

		○インターネットで、関連する写真や地図を保存することで画像の修正ができたり、何度も使ったりすることができる。	
5	○遠隔交流 1 回目 ・買い物調べの結果を発表する。 ・両校の似ているところと違うところを発表する。 ・感想を「コラボノート」に入力する。	○テレビ会議アプリ「Teams」を通して、他校と資料を共有して発表し合うことができる。 ○遠隔交流時に「発表ノート」を活用することで、画面上で資料を共有することができる。 ○本時の感想を「コラボノート」に入力することで両校の感想を円滑に共有することができる。	○発表時には、聞き手に伝わりやすい声で発表するよう意識づける。 ○両校が発表し合うことで他地域の買い物との相違点に気付かせる。
6 ～ 7	○店に並んでいる野菜や果物などの品物の仕入れ先を調べることで、店が他地域や外国とも結びついていることを理解する。 ○調べた結果を日本地図や、世界地図にまとめる。	○デジタル教科書や、資料を大型モニターに提示することで、課題を共有して話し合いを進めることができる。	○スーパーの店内写真を掲示し、お店が集客のために取り組んでいることや、工夫していることに気付かせる。 ○事前に各家庭でチラシを保管してもらい、それを用いて産地調べを行う。 ○グループごとに大きな白地図を配り、協働作業をしながら産地調べをさせる。
8	○コンビニの品物の売り方について調べ、スーパーの販売の仕方と比較して、店の工夫を考える。	○デジタル教科書や、資料を大型モニターに提示することで、課題を共有して話し合いを進めることができる。	○コンビニとスーパーでは、店の規模、商品の種類と質と量、営業時間などに違いがあることに気付かせる。
9	○商店街の取り組みや工夫を調べ、スーパーの販売の仕方と比較し、商店街の取り組みや工夫を考える。 ・商店街の良さに気づく。		○商店街の写真から、多くの個人商店が並んでいることや、アーケードや掲示物などの商店街としての取り組みに気付かせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーとの違いに気づく。 		
10	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちがよく利用する店について、詳しく調べる計画を立てる。（ビス進興について） ・お店の人に聞きたいことを考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○前時の振り返りを行い、今里商店街のよさや、特色について調べることを伝える。 ○ワークシートを用いて、質問したいことを具体的に考えさせる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ○ビス進興について学習する。 ・店内の写真を見る。 ・お店の人のインタビューを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットを使って、店内の写真や、インタビュー動画を個別で確認することで、知りたい情報を何度も確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の買い物の経験とつなげて調べたり考えたりするようにさせる。
12 ～ 14	<ul style="list-style-type: none"> ○前時でわかったことを「発表ノート」にまとめる。 ・配付されたスライドをもとに班で分担して作成する。 ○店内の写真やインタビューのメモなどをもとに「発表ノート」のスライドにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真の必要な部分をトリミングすることで、聞き手に伝えたい内容をより強調することができる。 ○「発表ノート」のグループ化機能を使うことで個人のスライドを簡単にまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間巡視をしながら、児童のスライドを確認し、文字の大きさや色などを見て、誰が読んでもわかりやすいスライドになっているか確認する。 ○スライドを作成する人、発表時の文章を考える人に分かれて活動するよう指導する。
15	<ul style="list-style-type: none"> ○発表の仕方について考える。 ・1回目の交流での経験をもとに発表時に気をつけることや、改善方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型モニターに提示することで、課題を共有して話し合いを進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型モニターに児童のスライドを投影し、実際に発表の練習をさせる。その時に、気づいた点を児童に伝え、訂正させていく。
16 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔交流2回目 ・今里小学校からは、「商店街の特徴や良さ」について、南港桜小学校からは、「スーパーの特徴や良さ」についてそれぞれ発表する。 ・発表を聞いてわかったことをコラボノートに入力する 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビ会議アプリ「Teams」を通して、他校と資料を共有して発表し合うことができる。 ○遠隔交流時に「発表ノート」を活用することで、画面上で資料を共有することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表時には、聞き手に伝わりやすい声で発表するよう意識づける。 ○両校が発表し合うことで他地域の買い物との相違点に気付かせる。

	・コラボノートの意見をもとにそれぞれのお店の共通点・相違点を考え、表にまとめる。		
17	○スーパーの販売の様子を振り返り、店が買い物客を集める工夫をしていることを消費者の立場からも考え、販売店側の工夫と関連づけて消費者側の消費行動の工夫を考えることができる。	○デジタル教科書や、資料を大型モニターに提示することで、課題を共有して話し合いを進めることができる。	○買い物客を集める店の工夫について、販売店側の工夫と消費者側の工夫について関連付けて考えてさせる。 ○最近始まったレジ袋有料化に伴い、スーパーマーケット内の掲示物の変化や工夫について写真を見せて気付かせる。
18	○これまでの学習を振り返り、買い物をするときに自分が気をつけることを考える。 ・それぞれのよさを振り返る。 ・店の選び方、品物の選び方を考える。 ・ネットショッピングについて知る。	○資料を大型モニターに提示することで、課題を共有して話し合いを進めることができる。	○買い物調べをしてまとめた地図や、グラフなどを見直し、それぞれの店のよさや特色について考えさせる。 ○今後、買い物をするときにどんなことに気を付ければよいか発表させていく。

本時の学習（第16時）

(1) 本時のICT活用について

授業形態	■一斉学習 □ペア学習 ■個別学習
ICT活用の場面	□導入 ■展開 ■まとめ
ICT活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる □ペアの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	□電子黒板 ■大型モニター ■指導者用タブレット端末 ■児童用タブレット端末 □その他（ ）
活用コンテンツ等	○発表ノート ○コラボノート ○Teams
ICT活用のポイント	○テレビ会議アプリ「Teams」を通して、他校と資料を共有して発表し合うことができる。 ○遠隔交流時に「発表ノート」を活用することで、画面上で資料を共有することができる。

(2) 目 標

- 声の大きさや、スライドの操作を意識し、聞き手に伝わりやすい発表をすることができる。
- 発表を聞いて、それぞれの店のよさや特徴、そして異なる点について伝え合うことができる。
- 本時の学習を通して気づいたことを「コラボノート」に入力することができる。

(3) 展 開

学習活動	☆ICT 活用のポイント ◇指導上の留意点	使用機器 コンテンツ	評価
○本時の学習課題を確認する。			
めあて 発表をし合って、商店街とスーパーのにているところやちがうところを見つけよう。			
○調べたことを発表する。 ・今里小学校 →商店街 南港桜小学校 →スーパー について発表 ・発表を聞いてわかったことをコラボノートに入力する。	☆テレビ会議アプリ 「Teams」を通して、他校と資料を共有して発表し合うことができる。 ☆遠隔交流時に「発表ノート」を活用することで、画面上で資料を共有することができる。 ◇聞き手に伝わりやすい発表（声の大きさはやさ）になっているかを意識させる。	授業用 PC ウェブカメラ 大型モニター タブレット端末（児） 発表ノート Teams	○発表時には、声の大きさや速さに気を付けて聞き手を意識した発表することができる。 ○発表を聞いて、気づいたことをワークシートにメモをしている。
○コラボノートの意見をもとにそれぞれのお店の共通点・相違点を考え、表にまとめる。	◇両校の発表資料を見ながら比較しながらすすめる。	タブレット端末（児） コラボノート	
○学習のまとめをワークシートに書く。	◇本時の学習のまとめをワークシートに記入させ、それぞれのお店のよさや特徴に気づかせる。		

板書計画

めあて 発表をし合って、商店街とスーパーのにているところやちがうところを見つけよう。

①発表をする。

- ・大きな声で
- ・ゆっくりと
- ・マイクの前で

- ・前を向いて
- ・聞き手を意識しき

②発表を聞いてわかったことをコラボノートに入力する。

③発表を終えてそれぞれのとくちょうをまとめる。

④学習のまとめを書く。

めあて 発表をし合って、商店街とスーパーのにているところやちがうところを見つけよう。

★ふせんにそれぞれのとくちょうを書いて、表にまとめていこう。

商店街のとくちょう	スーパーのとくちょう	商店街とスーパー両方にあるとくちょう

学習のまとめ

--

資料「コラボノート活動ページ」（今里小学校）

<p>スーパーの発表を聞いて わかったことを入力しよう</p>		1番	2番	3番
		4番	5番	6番
7番	8番	9番	10番	11番
12番	13番	14番	15番	16番
17番	18番	19番	20番	21番












商店街の発表を聞いて わかったことを入力しよう		1番	2番	3番	4番
		5番	6番	7番	8番
9番	10番	11番	12番	13番	14番
15番	16番	17番	18番	19番	20番
21番	22番	23番	24番	25番	26番
27番	28番	29番	30番	31番	32番

めあて 発表をし合って、商店街とスーパーのにているところやちがうところを見つけよう。

★ふせんにそれぞれのとくちょうを書いて、表にまとめていこう。

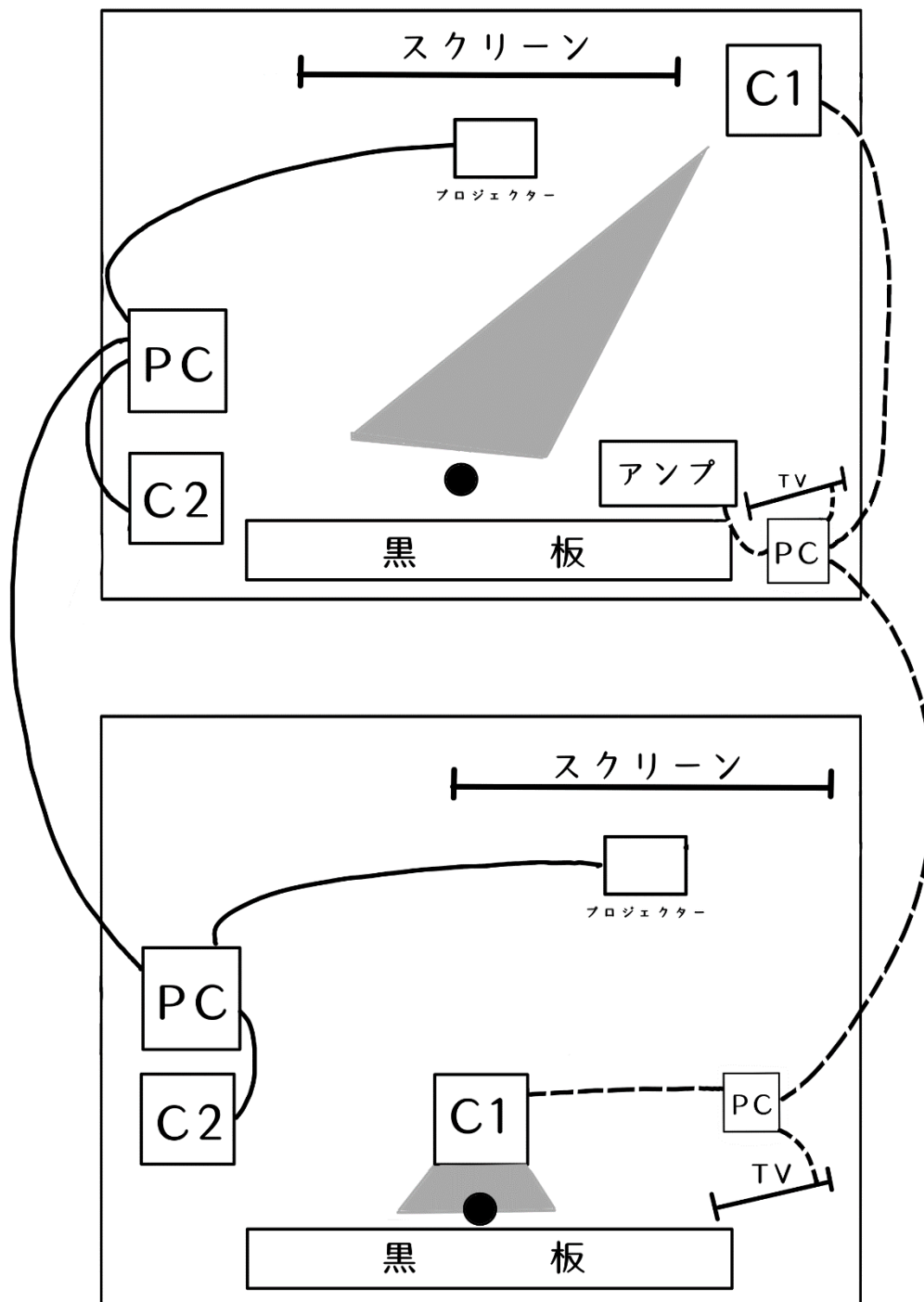
商店街のとくちょう	スーパーのとくちょう	商店街とスーパー両方に共通するとくちょう

学習のまとめ

--

名前 ()

今里小学校



南港桜小学校

- C1:発表者用カメラ
- C2:教室全体用カメラ
- :発表者位置

(4) 授業を終えて

①成果

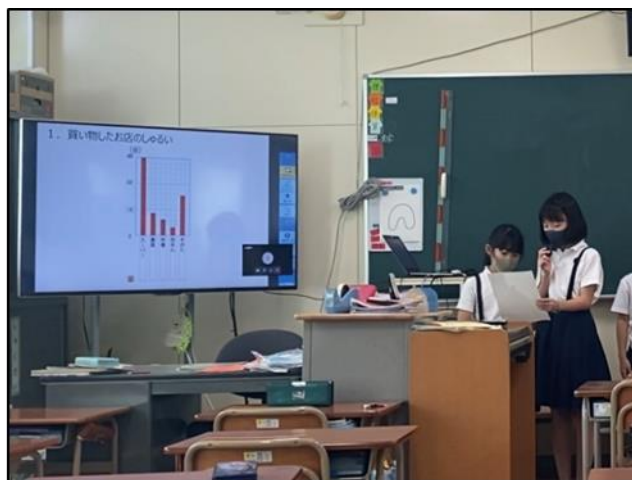
- ・ テレビ会議アプリ「Teams」を活用することで、他校と遠隔で交流し、地域によつての相違点に気づくことができた。
- ・ 遠隔交流時に「発表ノート」を活用し画面上で資料を共有することによって、言葉で伝えるだけでなく視覚的にも伝えることができるようになった。また、発表資料を作成するときも、画用紙にまとめるのに比べて児童が円滑に取り組むことができていた。
- ・ 発表の感想を「コラボノート」に入力することで、両校の感想をすぐに共有できた。また、感想が次々と反映されるので、児童が協働学習していることを感じる事ができていた。

②課題

- ・ 本時の活動内容が多かったので、「両校の発表」と「商店街とスーパーの比較」は分けて行うほうが良いと感じた。
- ・ 発表だけではなく、両校の意見交流をもう少し時間をとることで、さらに協働学習していることに気づかせる方が良かった。



発表ノートにまとめている様子



南港桜小学校に発表している様子